

流行性耳下腺炎に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 0	1	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 24	40	ヘルパンギーナ	↓ 74	92
咽頭結膜熱	→ 13	13	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 113	115
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 27	59	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 174	252	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 4	3
水痘	↑ 17	15	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 16	24	無菌性髄膜炎	↑ 3	0
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 5	7	マイコプラズマ肺炎	↑ 16	5
突発性発疹	↓ 37	39	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- ヘルパンギーナ

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

- 伝染性紅斑 : 山鹿
- ヘルパンギーナ : 天草、菊池
- 流行性耳下腺炎 : 八代

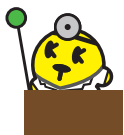
◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	14	3	15	45	7	12	2	14	0	12	37	0	3	0	2	12	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	10	0	0	3	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	8	1	0	24	3	1	0	7	0	14	9	0	1	0	0	1	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	0	0	4	14	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	0	0	1	25	0	0	0	3	0	10	21	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	3	2	0	0	0	1	1	0	0
8 人吉保健所	0	2	2	2	8	1	0	0	4	0	7	1	0	0	0	0	2	0	0
9 有明保健所	0	0	0	0	22	0	1	0	3	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	0	0	0	4	17	4	2	0	0	0	3	10	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	6	0	5	1	0	0	4	0	23	17	0	0	0	0	0	0	0
計	0	24	13	27	174	17	16	5	37	0	74	113	0	4	0	3	16	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	24	1	7	13	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	13	0	0	2	3	2	3	0	0	2	0	0	0	0	1						
A群溶連菌咽頭炎	27	0	1	0	1	3	3	3	3	3	1	1	7	0	1						
感染性胃腸炎	174	1	23	31	19	17	11	13	11	7	4	3	13	2	19						
水痘	17	0	3	2	1	5	1	1	1	2	0	0	1	0	0						
手足口病	16	0	2	7	0	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0						
伝染性紅斑	5	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0						
突発性発疹	37	0	15	19	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	74	2	10	31	14	10	2	4	0	1	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	113	0	1	6	9	13	24	25	13	7	6	4	4	1	0						
眼科定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	16	0	5	4	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0					
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

ヘルパンギーナは減少しています。引き続き、流行性耳下腺炎に注意しましょう



今週のヘルパンギーナの報告数は74件、定点あたりの報告数は4週連続で報告数が減少しましたが、依然として2地域で警報レベルです。また、流行性耳下腺炎の報告数は113件、定点あたりの報告数は横ばいですが、今年は報告数が多い状態が続いています。特に、八代地域では、報告数は減少していますが、7週連続で警報レベルです。

ヘルパンギーナは、突然の高熱が出て、口の中に水疱・発赤が出現し、痛みを伴うことがあります。流行性耳下腺炎は、唾液腺や耳下腺がはれ、発熱や痛みを伴うことがあります。両疾患とも飛沫や接触感染で感染するので以下の点に注意して予防しましょう。

予防のポイント

- ・外から帰った後や食事の前には時間をかけた丁寧な手洗いをこころがけましょう。また、必要に応じてマスクを着用しましょう。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活では、タオルを共用することは避けましょう。
- ・流行性耳下腺炎はワクチン接種による予防方法があります。特に、集団生活に入る前のワクチン接種が効果的と言われています。接種にあたっては、かかりつけ医などにご相談ください。

